

「ひろしま未来教師セミナー」の第3回の受講者のアンケート結果及び感想等をお知らせします。

【アンケート結果】

(11月20日 87名回答) ※ 4:とても 3:まあまあ 2:あまり 1:まったく

<満足度>	4 : 78人	3 : 8人	2 : 1人	1 : 0人
<理解度>	4 : 73人	3 : 13人	2 : 1人	1 : 0人
<今後の見通し>	4 : 72人	3 : 13人	2 : 2人	1 : 0人



【受講者の感想】

【子ども理解の基礎から】

- ・ 「教育的瞬間を見逃さない」。子どもが成長するために効果的な声かけや取り組みができるタイミングは、その一瞬だけで、同じ時間は二度と訪れない。だからこそ、その大切な一瞬を見逃さないよう意識して見守ることが必要であると分かった。(大学3年)
- ・ 「困っているのは教師ではなく、子ども。」という話の通り、子どもの価値観や背景を理解するよう努めることが大切だと感じた。常に子どもの視点に立つ教師であるべきだと実感した。(大学4年)

【特別支援教育の視点を踏まえた子ども理解から】

- ・ 特別支援教育は、全ての子どもの教育に通じるものであると学んだ。その子の特性を知るだけでなく、特性を理解したり、どんな支援が必要か考えたりすることが大切だと学ぶことができた。(大学3年)
- ・ 子どもが抱える障害に着目するのではなく、子どもが何に対して「困り感」を抱いているのかに着目することが重要であると感じた。また、子どもがトラブルを起こした時に、何をしたのかに着目するのではなく、どうしてそのような行動をとったのかという子どもの気持ちを考えることを学んだ。(大学3年)

<セミナーを受けて、今…>

セミナーを受ける度に、様々なことに熱心に取り組まれていることが伝わってきます。お互いに刺激を受けながら、全員で伸びていきたいです。これからも、みなさんが取り組まれたことをどんどん教えてくださいね。

- ・ 学校支援ボランティアに参加した。勉強や遊びを児童とともにやることによって、児童との関係づくりには何が大切かを考えたり、児童の変化に気付けるようにしたりした。
- ・ 技術科におけるプログラミング教育について、実際にプログラムを作成し、指導方法について検討した。
- ・ 知の向上を図った。具体的には、一日短時間でも教育書を読む中で、自分の知識として蓄えていくことができた。
- ・ 特別支援教育に関する論文を読んだ。
- ・ 実習で、中学校の生徒と触れ合う機会がたくさんあったので、自分から楽しい話題を持ちかけて、交流を深めようと努力した。
- ・ 現役の先生が開かれている勉強会に参加して、先生方から学んでいる。
- ・ 主体的に学習に取り組めるように、子どもたちから質問を受けた際には、答えをすぐ言わないようにし、自ら答えを導けるようなヒントを出すことを考えた。
- ・ 人と話す時、関わる時に、どのような声かけが適切であるのかを考えながら日々過ごした。だれに対しても、丁寧な言葉遣いを心がけた。
- ・ 教育実習で行った授業、全ての発問を振り返り、どういう発問が適切であったのかを考えた。